

# 悩みに寄り添い、感謝を分かち合うものづくり

縫い目が一切ないのに、適度なフィット感と快適性が持続——そんな画期的なマスクを生み出したのは、確かな技術と社内一貫生産による迅速性、そしてユーザーに寄り添う開発姿勢だ。

## 請われて挑んだ 初めてのマスク生産

今年三月から、コーポレーション パールスターは、いつにも増して大忙しだった。これまで生産したことのないマスク作りに取り組み、五月までに累計五万セットを出荷した。同社のマスクセットは、超極細繊維を編み立てたニット生地マスクカパーと適度に伸縮する耳かけ紐からなる。家庭用ティッシュなどをフィルターにして、ウイルスなどの拡散防止の効果をより高める仕組みだ。洗って繰り返し使える上に、抗菌効果もある。

開発のきっかけは、「マスクをして」と眼鏡が曇って仕事にならない

い」というスタッフの声だった。代表取締役の新宅光男氏は、以前、超極細繊維で試作した生地が役立つと考えた。水分を抱え込む力が強いから、スタッフ一人ひとりに五枚ずつ手渡した。余った生地は、介護従事者などに使ってもらえたらと、地元・東広島市の社会福祉協議会にお裾分けした。

すると、市や県にまで評判が広がり、マスクとして商品化してほしいとの声の日日に高まっていったという。「性能・効果が実証できなければ、商品化はできません。また、口に当てるものだから、衛生に配慮した生産方法も考え抜きました」

公的機関での生地のテストと並行

「今後の人口減少は不可避。そして、われわれ団塊世代がどんどん年齢を重ねていく。創業以来の靴下製造を続けるなら、健康分野に注目し、付加価値の高い予防医療的な製品を提供していくべきだと痛感しました」

そして、入社早々、健康靴下の生産に着手。九二(平成4)年には一般靴下の生産を停止し、健康関連商品

に特化した。新興国の攻勢にさらされていた繊維業界において、高付加価値製品に特化することで、価格競争を回避する経営戦略と捉えることもできる。以来、メリヤス編み立てというコア技術を磨きながら、多様な健康関連商品を開発・販売してきた。その画期となったのが、あぜ編み靴下だという。

## 攻めPOINT 機動力を生かす



6月には夏場の暑さに対応すべく、涼しさを保てる「冷潤マスク」を発売した



福祉機器コンテスト2007で優秀賞を受賞した「転倒予防くつ下」\*



### 〈コア技術〉

糸の巻き上げから編み機、洗い、反物、縫製、検品、出荷まで社内一貫生産を行っている\*



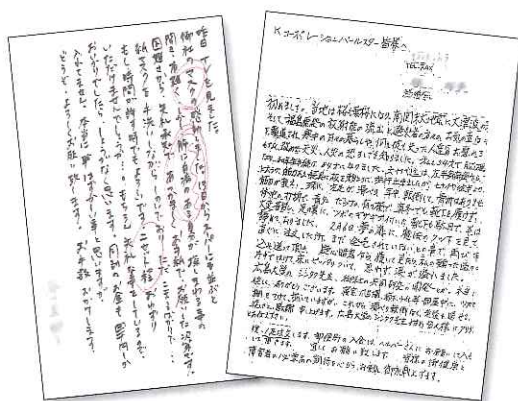
主力の医療用靴下はじめ、編み立て技術を生かしたさまざまな製品を生み出している。マスクにもその技術が応用されている

「ユーザーの声に伝えるため、とことん追求する。それが当社の開発の持ち味です」

足先の冷えに悩む糖尿病患者と二人三脚で、試作を繰り返し返した。足裏の発汗から生じる冷却を抑えるために注目したのは、小学校の理科の教科書に掲載されていた毛細管現象。吸湿に優れた綿を使い、水分を逃す溝を形成する編み立て方法を見いだした。使用する糸の太さや縫りにも細心の注意を払い、実に一年近くをかけて生み出したのが、あぜ編み靴下だったのだ。

その後、繰り返しこうした開発手法を用い、多くの新製品を世に送り出した。また、大学等と連携して効果の実証にも取り組む。その実績がノウハウとして蓄積され、揺るぎない強みとなっていく。二〇一四(同26)年には医療機器製造販売業としての認可を取得し登録。信頼性をさらに高めている。

従来、新製品開発は新宅社長が一手に担ってきた。一〇年ほど前から、工場長や若い技術者なども参加して、現場主体の開発体制を組むことができるようになった。新宅社長が心がけているのは、スタッフへの



ユーザーからの「感謝の手紙」はものづくりの原動力

して、試作を繰り返し返した。縫製なしにピタリとフィットする形状としたのは、手袋をはめてミシンをかけるのは難しいからだ。編み立て後、乾燥して殺菌した後は素手では触らず、袋詰めする。

「従来の納品先の一つである医療機器メーカーから、生産ノウハウを学びました」

製品はまず県や市に四〇〇枚を寄付し、その後、従来の取引ルートを通じて県内を中心に販売。病院などへは直販も行った。不織布の製品に比べ肌に優しいといった点でも、大好評だ。

## コア技術を磨き 実証研究も重視する

コーポレーションパールスターの創業は、一九一五(大正4)年にさかのぼる。三代目に当たる新宅社長は学生時代、「企業の社会的責任」について研究した。

### 開発方針の伝え方だ。

「お客様の要望、訴えを、情景がそのままにわかるように伝える。そうすることで、どんなものを作ればいいのか、方向性をしっかりと共有できます」

また、同社にはユーザーから感謝のメッセージが数多く寄せられる。やはり従業員全員で共有。「作ってよかった」「この仕事が誇らしい」といった気持ち、次へと進む原動力になる。

「ある医大の先生から、人生に直結するものづくり」と評していただいたことがありました。製造業だからこそ味わえる境地です」

新型コロナウイルス感染症拡大に伴って失った売り上げを、マスクがカバーしてくれた。夏向けの新製品の引き合いも順調だ。そうしたなかで新宅社長は、さらに先を見据える。

「どんな事態に遭っても、生き残るポイントには技術力。特殊繊維の編み立て技術を守り育てながら、コロナ後の社会的なニーズに応えていきます」

※写真提供 株式会社コーポレーションパールスター

会社概要  
事業内容/靴下製造業  
所在地/広島県東広島市  
創業/1915年 従業員数/30名



「どんな事態に遭(あ)っても、生き残るポイントは技術力」と語る新宅光男社長\*